

●優秀賞

## 生き生きと英語を学び、表現できる生徒の育成

愛知県岡崎市立北中学校 武井 翔



### 1 主題設定の理由

新学習指導要領においては、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実が掲げられている。中学校外国語（英語）は、年間授業時数が140単位時間に変更となり、週あたりにして1単位時間の増加となる。3年間で扱うべき言語材料はほとんど増えていないことから、増えた1単位時間を効果的に活用して、学ぶ魅力や価値を実感でき、基礎的・基本的事項を活用することができる言語活動に数多く取り組ませたいと考え、平素の授業づくりを進めている。

平成19年度から「スピーチ」に着目した言語活動の実践に取り組んできた。スピーチを通して、生徒たちは基礎的・基本的な知識・技能を活用して、表現力を向上させることができた。このような言語活動は、題材内容や文法項目との関連、活動の進め方を工夫することで、生徒が学ぶ魅力や必然性を実感するとともに、基礎的・基本的な知識・技能を高めたり、思考力・判断力・表現力を養ったりできることを実感した。そこで、「スピーチ」よりも即興性の高い、ALT（外国語指導助手）との1対1の「スピーキングテスト」を設定し、生徒が英語を話す楽しさを実感できる言語活動のあり方を模索したいと考えた。

これまでの研究実践では、「書くこと」による表現力の育成に関して課題が残った。「書くこと」の指導は、ともすればそれだけで完結してしまい、他の技能（聞く・話す・読む）との関連が決して十分とは言えないことも多かった。しかし、表現力は「話すこと」と「書くこと」が相互に関連し合って伸びていくものであることを考えれば、「書くこと」の表現指導のあり方を見直し、「書くこと」を基盤とした言語活動を計画・実施することが、確かな表現力を身につけさせるためには必要不可欠であると言える。

また、言語活動の評価方法も慎重に検討する必要がある。生徒にとっては、授業で学習した内容が十分に評価されなければ、学習意欲は減退してしまう。これまでの言語活動における評価方法を振り返ってみると、「意欲」と「表現」の観点に関する総括的評価を行ってきた程度であった。言語活動における形成的評価と総括的評価の実施方法を工夫し、「指導と評価の一体化」をめざすことが、生徒の言語活動への学習意欲をさらに高めることにつながるのではないかと考えた。

以上のことを踏まえて、「書くこと」を基盤とした、学ぶ魅力や必然性のある言語活動を設定するとともに、「指導と評価の一体化」をめざすことによって、生徒の言語活動への意欲を高めながら、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、「話すこと」・「書くこと」による確か

な表現力を育成したいと願い、研究実践を進めることにした。

## 2 研究の概要

### (1) めざす生徒の姿

「生き生きと英語を学び、表現できる生徒」の姿を次のようにとらえた。

- 英語学習に興味・関心をもって主体的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得できる生徒
- 思考力・判断力を養いながら、意欲的に表現活動に取り組み、確かな表現力で自分の思いや考えを伝えることができる生徒

### (2) 研究の仮説と手だて

本研究における仮説（I 言語活動に関する仮説 II 評価活動に関する仮説）と手だてを次のように考えた。

**【仮説 I】** 生徒が学ぶ魅力や価値を実感できる言語活動に取り組めば、基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、思考力や判断力を養い、「書くこと」・「話すこと」の表現力を高めることができるであろう。

### 手だて I 「書くこと」を基盤とし、思考力・判断力・表現力の育成を図る表現指導

- ① 生徒が学ぶ魅力や価値を実感できるように、教科書の単元に合わせて、「岡崎市の観光名所」に関する自主教材を開発し、ふるさと・岡崎の特徴や魅力に関して、思考力・判断力を養いながら、英語で自己の思いや考えを表現する場を設ける。
- ② 教科書の単元の言語材料と自主教材との系統性に配慮しつつ、「書くこと」を基盤とし、「話すこと」との関連をもたせた表現活動に関する独自の単元指導計画を作成し、系統的かつ計画的に表現指導を行う。

**【仮説 II】** 評価活動の段階において、言語活動に関する「指導と評価の一体化」を図れば、生徒の言語活動に対する意欲を向上させ、より確かに表現力を向上させることができるであろう。

### 手だて II 生徒の言語活動への意欲を向上させるための、「指導と評価の一体化」

- ① 言語活動に「スピーキングテスト」（「話すこと」の実技テスト）を位置づけ、形成的評価を積み重ね、総括的評価に集約することで、言語活動の実用性を高め、生徒の「話すこと」による表現意欲の向上を図る。
- ② 定期テストにも事前告知型の表現問題として出題することにより、「書くこと」による表現力の育成を図り、多面的に評価を行うようとする。
- ③ 生徒自身によるスピーキングテストでの発話内容の書き起こしや、定期テストの答案の分析を通して、生徒の課題を客観的に把握し、事後指導に生かす。

### (3) 抽出生徒について（生徒A）

生徒Aは、「英語」という教科にやや苦手意識があるものの、毎時間の授業をはじめに受けていた。学力的には学年の中で中位に属し、日々の授業と家庭学習への丁寧な取り組みによって、こつこつと英語力を伸ばしている状態であった。

生徒Aの保護者から、姉と妹は英語が得意だが、生徒Aは英語に苦手意識があるという実態を聞いた。しかし、英語検定にも挑戦する等、英語学習に前向きに取り組もうとする姿勢も見られた。日々の授業の様子からは、自分なりの「こうしたい」という思いが感じられ、スピーチ活動やコミュニケーション活動では、よかつたところや改善したいところ等を具体的に自己評価することができた。自己の課題を正確に把握する力は高く、教師による評価と合致する内容が多かった。

このような生徒Aの姿から、英語に対する苦手意識を取り除き、生き生きと英語を学び、表現できるようになってほしいと考えた。そして、語彙や文構造の基礎的・基本的な知識・技能を

確実に習得した上で、思考力・判断力を養いながら、意欲的に言語活動に取り組み、自分の思いや考えを、自信をもって堂々と伝えることができる、確かな表現力を身につけてほしいと願う。

#### (4) 単元指導計画

単元名：デイビッド先生に岡崎の観光名所を紹介しよう（6時間完了）		
教科書の関連単元：Multi Plus 3 わたしの町（NEW HORIZON English Course 2）		
本単元における「知識・技能の習得」と、「思考力・判断力・表現力」のとらえ		
◆「知識・技能の習得」とは 教科書の単元や表現活動を通して学ぶ語彙や文構造を「知識」ととらえ、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の「4技能」を活用して、その「習得」を図る。		
◆「思考力・判断力・表現力」とは 岡崎の特徴や魅力について「思考・判断」し、「書くこと・話すこと」で「表現」する。		
時間	生徒の学習活動	教師の支援と指導の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Multi Plus 3で自分の町を紹介する表現の基礎を学ぶ。</li> <li>● 「岡崎の観光名所」に関する自主教材を読み取り、紹介文の原稿を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 岡崎の観光名所に関する自作教材を作成する。</li> <li>● 各自で岡崎の観光名所を決め、自作教材を読み取る活動を通して、紹介への意欲を高める。</li> <li>● 自作教材から原稿作成に活用できる表現を見つけさせることで、下位層の生徒でも表現活動に取り組みやすいように支援する。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● “OKAZAKI MAP”として、原稿の清書をする。</li> <li>● “OKAZAKI MAP”を回し読みする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒一人ひとりが作った“OKAZAKI MAP”を、学級で1冊のファイルに綴じ、読み物教材として活用させる。</li> </ul>
2 (相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業前半の10分程度を利用して、継続的に原稿の暗唱練習に取り組む。</li> <li>● 岡崎の観光名所に関する英文（自主教材から抜粋）を、英語通信で読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ふりかえりカード」を活用し、紹介文の原稿と暗唱練習の感想等を記入させ、自己の課題を把握させる。また、朱筆を入れることで、生徒の努力を励まし、具体的な助言を行う。</li> <li>● 英語通信を活用し、岡崎の観光名所に関する英文を継続的に読ませる。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期テストの観点別評価問題(表現の能力)として出題する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スピーキングテストで「話すこと」による表現の能力の評価を、定期テストで「書くこと」による表現の能力の評価を実施する。これにより、「話すこと」と「書くこと」による確かな表現力の育成を図る。</li> </ul>

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ALTとのスピーキングテストを受ける。</li> <li>●スピーキングテストでの発話内容の書き起こしの記録をまとめること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スピーキングテストの出題形式を予告し、出題形式に沿って、毎時間の帯活動として会話練習に取り組ませることで、より一層自信をもって堂々とスピーキングテストを受けることができるようになる。</li> </ul>
---	---	--

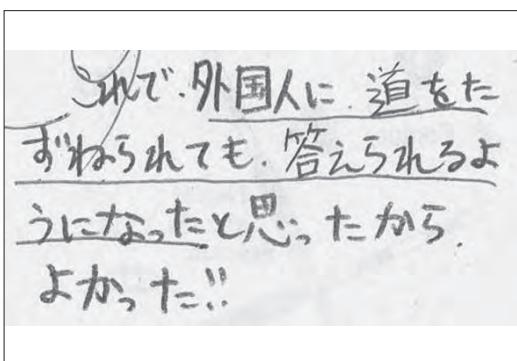
資料1 言語活動に関する単元指導計画

### 3 研究の実践

#### ●研究単元設定の理由

岡崎市では、「『岡崎の教育』の三本柱」として「英語教育」・「環境教育」・「岡崎の心の醸成」に取り組んでいる。その中で、「岡崎の心の醸成」をめざして、本校2年生英語科では、「岡崎市内の道案内ができるようにしよう」という単元を作り、東岡崎から岡崎城や図書館、八丁味噌工場への行き方を尋ねたり、説明したりする表現を学ばせた。コミュニケーション活動では、岡崎市内の地図を用いて、“Could you tell me the way to Okazaki Castle?” や “Turn left at the second traffic light.” 等の表現を活用することができた。この単元の学習を通して、生徒Aは、資料2のように、道案内に自信を持つことができた。

本実践は、「道案内」の続きの単元として導入を図った。生徒たちが、岡崎市内の観光名所を簡単な英語で説明できるようになれば、岡崎への愛着を高め、岡崎のことをもっと発信していくみたいという思いをもつようになるのではないかと考えた。



資料2 道案内の実践での生徒Aの授業日記

全員一律に、同じ観光名所を紹介するのではなく、言語活動に深まりが生じないため、複数の観光名所を提示し、その中から1か所、好きな名所を選んで紹介させるようにした。

本単元では、「言語活動の帯活動化」を取り組んだ。継続的な帯活動として、ペアで観光名所の紹介文の原稿の暗唱練習を行うことにより、一層の自信をつけさせるとともに、英語としての正確さや流暢さ、話し方にまで注意を払わせるようにしたい。

そして、「定期テスト」後に「スピーキングテスト」を実施し、「書くこと」と「話すこと」による表現の能力の評価を行う。本実践を通して、確かな表現力の育成に向けた効果的な指導法を模索したい。

#### ●1時間目 岡崎の観光名所の紹介文を書く

本単元の1時間目では、教科書の単元（Multi Plus 3 わたしの町）で自分の町を紹介する際に使える表現を学習した後、岡崎の観光名所の紹介文を書いた。観光名所として、岡崎城・岡崎公園・大樹寺・滝山寺・図書館（りぶら）・東公園・八丁味噌工場の7か所を提示し、各自で1つ選んでよいことを知らせたところ、生徒Aは「岡崎城」を選んだ。

それぞれの観光名所にどのような特色があるのかを十分に把握していない生徒も多い。そこで、ALTの協力を得て、名所に関する自作英文資料を用意し（資料3）、必要な情報を読み取らせた。

紹介文を書く際に、英文資料の中から使える表現は活用してよいことを知らせると、どの生徒もすばやく各自の紹介する名所に関する英文

**Let's Read****岡崎の名所の特色を読み取ろう**

- ① 自分が紹介したい名所に関する英文を読んでみましょう。
- ② 紹介文を書くときに使える表現に、下線を引きましょう。

**(1) Okazaki Castle(岡崎城)**

Okazaki Castle is very famous for Tokugawa Ieyasu. He was the first *shogun* in the Edo \*era. He was \*born in Okazaki Castle on December 26<sup>th</sup>, 1542. His \*grandfather, Matsudaira Kiyoyasu, \*built Okazaki castle. This castle is in Okazaki Park and many people visit this park.

<注>era:時代 born:生まれた grandfather:祖父 built:build(建てる)の過去形

**(2) Daijuji Temple(大樹寺)**

This is the \*family temple of Matsudaira and Tokugawa. We can see Okazaki Castle from Daijuji Temple. It is 3 kilometers long and the view is very nice. We call it “\*Vista Line”.

<注>family temple:菩提寺(先祖代々の墓や位牌を置いてある寺) Vista Line:ビューライン

**(3) Takisanji Temple(滝山寺)**

Takisanji Temple is famous for an exciting fire festival. We have this festival to wish for \*peace and a good \*harvest. We call it *The Oni Festival*. It started in the Kamakura Period.

<注>peace:平和 harvest:収穫 period:時代

**(4) Libra(りぶら)**

Libra is a very beautiful library. It is very new. Okazaki City \*opened it in 2008. It is near Okazaki Park. There are 600,000 books in it. They have the *Ieyasu Library*. There are 700 \*seats there.

<注>open:開く seat:席

**(5) Okazaki Park(岡崎公園)**

Okazaki Park is a \*traditional park in Okazaki. The \*cherry blossom and the \*Gomangoku Wisteria are very beautiful. We can also see fireworks in summer. It is one of the Japan's top 100 City Parks.

<注>traditional:伝統的な cherry blossom:桜 the Gomangoku Wisteria:五万石藤

**(6) Higashi Park(東公園)**

There is a big park in the east of Okazaki city. We call this park *Higashi Koen*. It is a nice place to see the beautiful fall leaves. We can see nice \*irises there in June. We can also enjoy walking around the park.

<注>iris(es):菖蒲

**(7) Hatcho-miso factory(八丁味噌工場)**

There are two *miso* factories in \*Hatcho-cho. They are \*to the west of Okazaki Castle and about 870 meters \*apart from Okazaki Castle. In Japanese, “hatcho” \*meant about 870 meters. So, we call it *Hatcho miso*. We need \*more than two summers and two winters to make this *miso*.

<注>Hatcho-cho:八帖町(町名) to the west of....:....の西に apart:離れた meant:意味した(過去形) more than...:…以上



[Right] the city library, Libra  
[Left] the view from Daijuji to Okazaki Castle(Vista Line)



**資料3** 岡崎の観光名所に関する自作資料

を読み始めた。生徒Aは「岡崎城」に関する英文を読み、英文の表現に下線を引く姿が見られた。

その後、生徒Aは和英辞典を片手に教師に質問しつつ、紹介文を完成させた。

紹介文を書き終え、教師で一度点検をした後、下(資料4)の帶活動のための「ふりかえりカード」に、スピーキングテストに向けて「できるようになしたいこと」(目標)と、紹介文の原稿を書かせた。

生徒Aは、今回の目標を、「今まですらすら話すことに集中していたけど、今回はそれに加えて声の強弱をはっきりつけ、聞く人が興味をもてるよう話したいと思った。あと、テストでもカンペキに書けるようにしたい」と、「話

すこと」と「書くこと」の両面について設定した。

確かに、生徒Aは、話し方がやや単調な面があり、この目標設定はうなづけるものであった。生徒A自身の「聞き手への意識」は確実に高まってきており、自分に何が必要なのかをはっきりと自覚できるようになっていることには感心した。

紹介文の原稿を「ふりかえりカード」にも記入させたのは、毎回の練習で見つかった課題を直接書き込めるようにするためである。「ふりかえりカード」には、「①よかったです、②次回、よくしたいところ」を文章で記述するが、具体的に注意すべき点も書きとめておけば、教師からの助言・朱筆に加えて、自己の課題を意識しやすくなると考えた。

コミュニケーションタイム ふりかえりカード	
【毎時間の表現活動】 「岡崎の観光名所を英語で紹介できるようにしよう】	
2年( )組( )番 名前( )	
【目標】	
①自分が選んだ「岡崎の観光名所」を英語で紹介することができる。 ②声の大きさ・アイコンタクト・姿勢などを意識し、聞き手にわかりやすいように紹介することができる。 ③「話すこと」(スピーキングテスト)と「書くこと」(総合テストの表現問題)の両面で、毎時間の表現活動の成果を発揮することができます。	
【できるようになしたいこと】(例) デビッド先生に、自分の選んだ観光名所へ行ってみたいと渡ってもらえたようにしたい。	
今はすらすら話すことに集中しているけど、今度はそれに加えて声の強弱をはっきりつけ、聞く人が興味を持てるように話したいと思った。それでテストでカンペキに書けるようにしたい。	
A sightseeing spot ( Okazaki Castle )	
【紹介する岡崎の観光名所に関する英文原稿】	
紹介する時に気をつけたいところを書き込もう。 (発音・intonation・話し方・間の取り方・音量など、自分で必要な課題を書く)	
(1)	1. どんなところなのか ( There ) ( is ) @rice( castle ) ( in ) Okazaki.
(2)	2. 名称 It is ( Okazaki Castle ).
(3)	3. 場所 It's ( in ) ( the ) center ( of ) Okazaki.
(4)	4. 有名なもの It's ( famous ) ( for ) Tokugawa Ieyase.
(5)	5. その他の特色 ( He was born ( in ) Okazaki Castle ).
(6)	6. 自分の思いい考えなど ( I'm proud that he was born ( in ) Okazaki ).
今日の練習をふりかえって (①よかったです、②次回、よくしたいところ)	
1/15	①自分が選んだ岡崎城をつかれて思って Gokuza Castle is a great place to visit. ②自分が選んだ岡崎城をいつか見て原稿を見せて貰いたい。 I want to see my original manuscript when I visit it.
1/19	①自分が選んだ岡崎城をいつか見て OK! I'd like to see it again! ②自分が選んだ岡崎城を見てはねて言えないから原稿を書いて貰おう。 I can't say anything about the Gokuzaka castle because I've never seen it. Please write it for me!
1/20	①自分が選んだ岡崎城を見てはねて言えないから原稿を書いて貰おう。 Please write it for me! ②(4)自分が選んだ岡崎城を見てはねて言えないから原稿を書いて貰おう。 Please write it for me!
英語の上書きのコリは「まちガエル・かんガエル・つかエル」ですよ!	
まちガエル・かんガエル・つかエル	

資料4 生徒Aのふりかえりカード

## ● 2時間目 “OKAZAKI MAP” として原稿の清書をする

岡崎の観光名所の紹介文を生徒作の読み物教材として活用したいと考え、“OKAZAKI MAP”を作成し、学級で1冊のファイルに綴じることにした。

紹介文（英文）のほかに、絵や写真も添えて仕上げるように指示したところ、以前配付されたプリントの写真を参考にして自分で絵を描いたり、用意した写真を切り貼りしたりする生徒もいた。生徒たちは、自分なりの工夫を凝らして、丁寧に作っていた。

生徒Aは、レイアウトにこだわって清書を進めていた。英文はもちろんのこと、それに合う絵を考え、描いていたため、やや他の生徒より

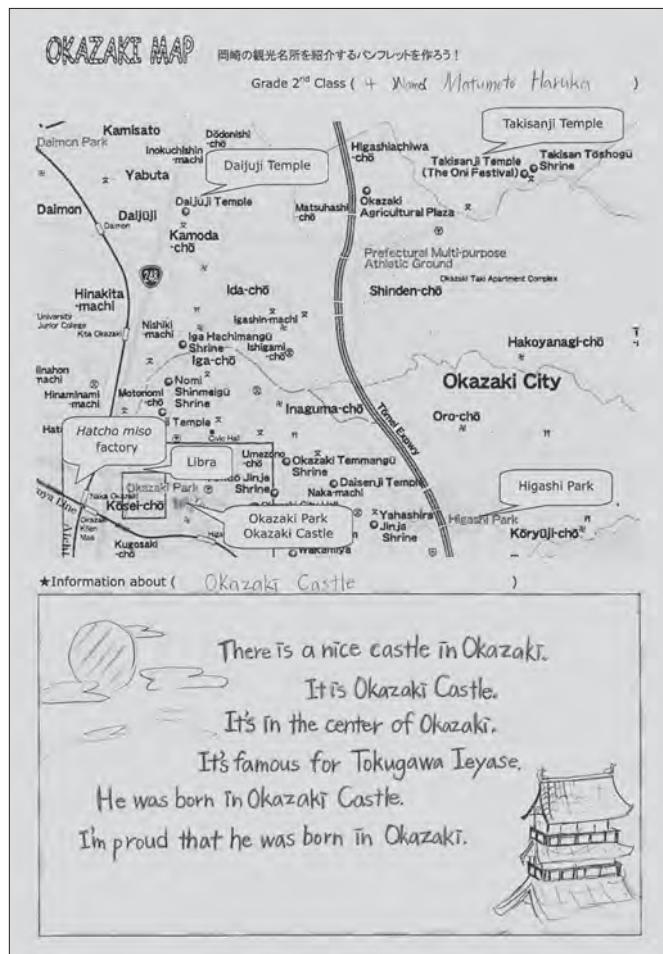
も時間がかかった。また、グループになって清書に取り組ませたため、周りの生徒のまとめ方も参考にしつつ、資料5のように仕上げた。

清書が早くできた生徒同士で、“OKAZAKI MAP”の読み合いをさせた。仲間の書いた英文を真剣に読み取る姿が数多く見られた。

“OKAZAKI MAP”は、教室に置いておき、自由に読めるようにしたり、問題演習の時間に回して一人ずつ読めるようにするなどして、数多くの生徒の作品に触れさせるようにした。また、優秀な“OKAZAKI MAP”を「英語通信」に掲載し、そのよさを紹介した（資料6）。

## ● 帯活動 授業前半の10分程度を利用して、継続的に原稿の暗唱練習に取り組む

帯活動として取り組ませる際、単調な繰り返



資料5 生徒AのOkazaki Map

しにならないよう、以下の3段階に分けて練習をしていくことにした。

### 【STEP 1 Read and Look up】における生徒Aの姿

資料7は、合計4回行った、【STEP 1】Read and Look up（原稿を見ずに、顔を上げて言う）で話す練習でのふりかえりの記録である。1回

目～4回目では、原稿を暗唱し、Read and Look upですらと言えることが課題ととられたことがうかがえる。

### 【STEP 2 キーワードで話す】における生徒Aの姿

資料8から、5回目でキーワードで話す練習に切り替えたところ、「キーワードを見て、ど

資料6 「英語通信」で優秀な作品を紹介

の文を言うのかを頭の中で整理することができた!!」と、感想を書いた。キーワードだけで話すことは、一段レベルの高い活動であるが、原稿の英文を整理して理解し、暗唱をより確かなものにしようと、意欲的に取り組む姿が見られた。6回目からは、具体的な単語がふりかえりの記述の中にも継続して表れるようになり、英文の細部にまで注意を払って暗唱に取り組んでいる様子がうかがえた。

### 【STEP 3 スピーキングテストと同じ形式で話す】における生徒Aの姿

授業時間の関係で、【STEP 3】は2回の実施となった。資料9から、8回目では、暗唱が進んで最初の2文をすらすらと言えるように

なったこと、9回目では、5文を間違えずに言えるようになったことに喜びを感じていることがわかる。

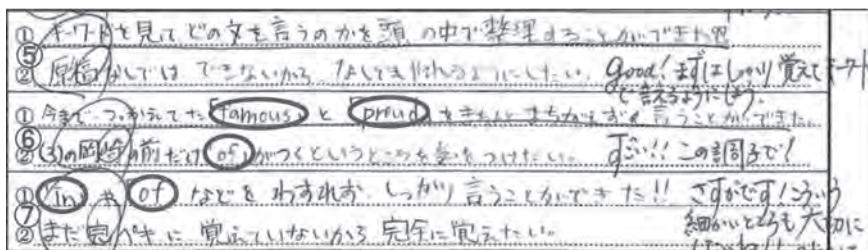
### 【スピーキングテストの「リハーサル」の設定】

10回目に、教師（JTE）と1対1で、スピーキングテストを想定したリハーサルを行った。生徒Aは比較的落ち着いて取り組むことができた。

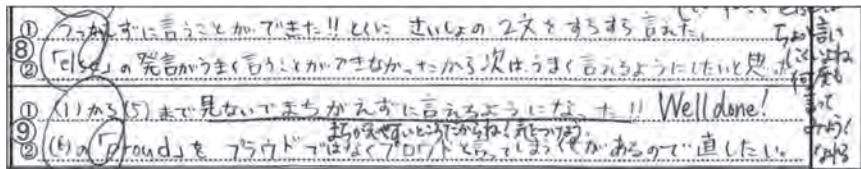
生徒Aは、リハーサルで「自分の思いや考え」を述べる一文（I'm proud that he was born in Okazaki.）の暗唱が不十分であったことを反省として書いた。全体的にはよく言えていたことを称賛しつつ、テストまでにさらに正確さを高めるように助言した。



資料7 1～4回目のふりかえり



資料8 5～7回目のふりかえり



資料9 8～9回目のふりかえり

◆ リハーサルで見つかった課題を書きましょう。 (6)(7)にくり返し言うといいね!!  
(6)の文の最初が「In」ではなく「In's」と言っています。同じく(6)の文をすらすら言わないところ。  
あと、(1)の文を言ってから、次の文(2)の内容が「しんみからなくなつたから」もっとしっかり覚える。

資料10 「リハーサル」後のふりかえり

本校2年生英語科では、授業や家庭学習を側面から支える手段として、毎週、「英語通信」を発行した。帯活動として暗唱練習に取り組んでいる期間中、「英語通信」に資料3の英文資料を1か所ずつ掲載し、意識化を図った(資料11)。

ここでは、3問程度の簡単な問題をつけ、生徒の自主学習にも使えるようにした。生徒Aは「自主勉強ノート」に、この問題を解いてくることもあり、今回の言語活動に意欲的に取り組んでいる様子がうかがえた。

### ●定期テスト 総合テストに「表現問題」として出題し、「指導と評価の一体化」を図る

3学期の「総合テスト」では、資料12のように出題した。教科書での未習語は、観光名所の名称は問題文中に掲載したが、生徒によって異なる語句については個人に任せ、正しく書けるようにしておくよう指示した。

下位学力群の生徒を考慮し、問(1)・(2)は部分的に( )埋めの形式を採った。

紹介文の原稿を確実に暗唱し、書けるようにしてテストに臨んだ生徒は、すべて正解できる

ようになっているが、抽出学級における当該生徒は、約48% (33人中16人) であった。また、本学級の生徒が書けた文の数の平均は、5.14文(完全正解の文は1文、部分正解の文は、0.5文で計算) であった。採点した際の実感としても、上位学力群の生徒はほぼ全6文を、中位学力群の生徒は5~6文を、下位学力群の生徒も3~4文程度は書いており、多くの生徒が事前にきちんと学習をしてきたことがうかがえるものであった。

生徒Aは、資料13からわかるように、6文のうち5文が正解で、1文が単語(born)のつづりの誤りによる減点があった。(6)でbornは正しく書けていることから、(5)のbornのつづりの誤りはケアレスミスによるものであることが予想される。自由英作文でも、自分の思いや考えを英文で書けるという実感をもたせながら、英文としての正確さをより一層高めさせるための指導法について、今後、研究を深める必要性を実感した。

Multi Plus 3(わたらしの町)

岡崎の観光名所の特色に関する英文を読んで、あとの問題を解いてみましょう。

(2) Daijuji Temple(大樹寺)

This is the \*family temple of Matsudaira and Tokugawa. We can see Okazaki Castle from Daijuji Temple. It is 3 kilometers long and the view is very nice. We call it \*\*Vista Line".

＜注>Family temple:お孫寺(先祖代々の墓や位牌を置いてある寺) Vista Line:ビューライン

問1 Can we see Okazaki Castle from Daijuji Temple?  
Answer \_\_\_\_\_

問2 How long is the "Vista Line"?  
Answer \_\_\_\_\_

問3 What do you think about "Vista Line"?  
Answer \_\_\_\_\_



資料11 英語通信の一部

12 ALTのデイビッド先生に、岡崎市内の観光名所を紹介したいと思います。下記の観光名所、または、それ以外の場所から1か所を選び、その紹介文を書きなさい。ただし、(1)~(6)に示す内容について、解答欄に合う形で書くこと。【表現】  
(配点:(1)と(2)は1点、(3)~(6)は2点 計10点)

＜紹介する観光名所＞

岡崎城 : Okazaki Castle	大樹寺 : Daijuji Temple	滝山寺 : Takisanji Temple
りぶら (図書館) : Libra	岡崎公園 : Okazaki Park	東公園 : Higashi Park
八丁味噌工場 : Hatcho miso factory		

＜紹介する内容＞

(1) どんなところか	(2) 名称	(3) 場所	(4) 有名なもの	(5) その他の特色
(6) 自分の思いや考え方				

資料12 3学期総合テストにおける観点別評価問題(抜粋)

(1) どんなんじろか 名前 場所	(There ) Is a nice castle in Okazaki.
(2) It is( Okazaki Castle ).	
12 (2) It's( in )the( center )of Okazaki. 有名なもの	
(2) It's( famous )for Tokugawa Ieyasu ). その他の特色	
(1) He was born in the Okazaki Castle . 自分の思い出	
(2) I'm proud that he was born in Okazaki.	

資料13 生徒Aの表現問題の答案

## ● 6時間目 スピーキングテストで自信をもつて岡崎の観光名所を紹介する

スピーキングテストは、ALTと1対1の個人面接形式で、空き教室を利用して実施した。資料14は、生徒Aによるスピーキングテストでの会話内容の書き起こしである。継続的に暗唱練習に取り組んできたため、スムーズにALTからの質問に答えることができた（写真1）。

資料15は生徒Aのふりかえりの記録であるが、「It's in the center of Okazaki.」と答える際に言い誤りがあり、訂正して言い直したことを、「失敗」ととらえたことがうかがえた。「どの文もきちんと正しく言いたい」という生徒A



写真1 生徒Aの様子

らしさが感じられる内容であったが、ALTに十分通じており、「相手に伝える」という点では十分できていたことを知らせ、称賛と励ましの朱筆を入れた。なお、スピーキングテストの

Friday March fourth (sunny)	
スピーキングテスト Q&A	
① Q May I come in? ② A Sure	
③ Q Hello!! ④ A Hello. ⑤ Q Please sit down. ⑥ Q Please your card.	
⑦ Q Here you are. ⑧ A Thank you. ⑨ Q How are you?	
⑩ Q Extra! Thank you. ⑪ Q How are you?	
⑫ A Extra! Thank you.	
⑬ Q Do you know any nice sightseeing spots?	
⑭ A There is a nice castle in Okazaki. It is Okazaki Castle.	
⑮ Q Where is it?	
⑯ A It is in the center of Okazaki.	
⑰ Q What is it famous for?	
⑱ A It's famous for Tokugawa Ieyasu. He was born in Okazaki Castle.	
⑲ Q And anything else?	Well done! おおむね
⑳ A I'm proud that he was born in Okazaki.	書類はおおむね であります。英語

資料14 生徒Aの書き起こし記録

本番一 (1)(2)(4)(5)(6)はスラストで言うことからやめてきたかった。でも、(3)は「Find」を  
言うので、やれやれと言ってしまった…。+こう練習してつまづいたたけじ。まだ  
練習不足だと思った。最初「How are you?」などと聞かれたときにうまくしゃべったからよ  
が士! 次回も詰もまくがえざるもとからまいとうにスラストで言うようにしたい!!  
うまいといふことはないよ。相手に「うまい」といふことはナコレしないので  
今後自信をもつて人に聞いてもらいたいといふぞ!

資料15 生徒Aのふりかえり

様子を録画したビデオの書き起こしと比較したところ、生徒Aの書き起こしでは4か所、単語のつづりの誤りが見られたが、よく暗唱ができていたことがうかがわれるものであった。

#### 4 仮説と手だての考察・検証

##### (1) 仮説Ⅰについて

以下は、本单元終了後のふりかえりの記録(2点)である。

- 八丁味噌の名前の由来は初めて知った。英語で岡崎のことを勉強できて楽しかった。
- 岡崎の名所の特色や自分の考えなどを考えると、「ずっと残していきたい」といろいろ考え直すことができた。デイビッド先生にももっと岡崎のよさを知ってほしい。

この授業日記のように、多数の生徒が、言語活動に魅力や価値を感じ取り、ふるさと岡崎の特徴や魅力に関して、思考力や判断力を養うことができた。ALTに、「岡崎市の観光名所」を紹介するという必然性が、生徒たちの、ふるさと岡崎への関心を高めさせることにつながったことがうかがわれた。

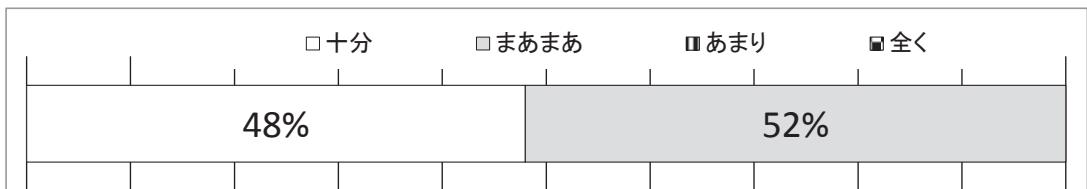
また、「書くこと」を基盤とした言語活動に関する単元指導計画を作成したことにより、単

元を通して、「書くこと」と「話すこと」をバランスよく指導することができた。授業での英作文が、定期テストとスピーキングテストで活用できることから、多数の生徒が意欲的に英作文に取り組むことができた。その成果は、後述の仮説Ⅱでの考察のとおりであるが、確かな表現力の育成に貢献できたと考える。

##### (2) 仮説Ⅱについて

抽出学級(33人)でスピーキングテストの出来についての意識調査を行ったところ、48%が「十分できた」、52%が「まあまあできた」と回答し、100%の生徒が肯定的な自己評価をつけた(資料16)。2年生1学期から継続してスピーキングテストを実施してきたが、本実践では毎時間の授業で継続的に原稿の暗唱練習に取り組ませてきたことにより、抽出学級においては生徒全員がこのような達成感・充実感を味わうことができたと考えられる。

「書くこと」による表現の能力の評価(定期テストでの出題)について、事前に出題内容・形式を周知したことで、85%(33人中28人)の生徒は、教科書では扱っていない語句であっても、自分が書きたい内容の英文であったため、テストで5文以上正しく書くことができた。資料17が示すように、90%の生徒が、「十分できた」



資料16 スピーキングテストに関する意識調査



資料17 表現問題についての意識調査

または「まあまあできた」と答えた。上位に限らず、中位から下位の生徒においても、同様の意識の傾向が見られたため、「指導と評価の一体化」によって、生徒の言語活動に対する取り組みは確実によくなり、表現力の向上に貢献できたと考える。

## 5 今後の課題

本研究では、「指導と評価の一体化」をめざした言語活動の授業実践に取り組み、一定の成果を得ることができた。その一方で、单元の到達目標とそれに基づくループリック（評価基準表）を生徒に提示して学習を進めることで、生徒も評価方法をより適切に理解し、一層の英語学習の成果を上げることができるのでないかと感じた。今後も、「知識・技能の習得」を図り、「思考力・判断力・表現力」を育成するための研究実践を深めていきたい。

### 〈参考文献〉

- 『英語力がぐんぐん伸びる！コミュニケーション・タイム 13の帯活動＆ワークシート』  
(本多敏幸著 明治図書)
- 『第42回 生活教育研究協議会 REJOICE（教科別協議会資料）』(愛知教育大学附属岡崎中学校)
- 『第37回 研究協議会発表要項（英語科）』  
(筑波大学附属中学校)